

平成27年度 自己評価表 （計画段階・実施段階）

福岡県立直方特別支援学校長

学校運営計画（4月）				評価（総合）	
学校運営方針	幼児児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自己実現と共生社会の形成に向けて、心豊かな人間性を培うとともに、自立・社会参加し、主体的かつ個性豊かに生き抜く力を育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標		具体的目標		
	幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	個別の教育支援計画に基づいた個別の指導計画の作成、指導及び評価の充実			B
	人権教育の推進と人権に配慮した教育環境の整備	幼児児童生徒一人一人が大切にされていると実感できる場の工夫や雰囲気づくり			
	学校行事等を通じた幼児児童生徒の相互理解の推進	儀式的行事、体育的行事及び文化的行事の合同実施の推進			
	教職員の専門性の向上と組織としての指導体制の充実	教職員の研修体制の整備と教育部門別の専門的研修による実践的指導力の育成			
	地域における特別支援教育のセンター的機能の充実	特別支援教育等に関する相談・情報提供機能の強化			
	交流及び共同学習の推進	幼稚園、小学校、中学校、高等学校等との連携の推進			
	教職員の不祥事防止意識の向上	体罰や飲酒運転、個人情報の漏洩等に関する不祥事防止研修の充実及び防止のためのシステムづくり			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
学校運営	3教育部門を有する学校として、効率的な学校運営の在り方を検討する。	会議の精選や会議の効率的な運用の在り方を探る。	A	A	・企画委員会、運営委員会の計画的・効率的な運用を図る。特に、重要事項について関係者会議を計画的に実施し、解決策を適宜周知しながら、主任主事を中心に教職員の学校経営参画意識を高めるとともに、風通しの良い学校運営に努める。
		組織的な運営を可能にするため、主任主事の役割を重視する。	A		
	学校全体の行事、各教育部門・学部行事について相互に把握する。	B			
学校運営	不祥事ゼロの学校を目指す。	体罰によらない指導を常に意識し、学部等にチェック機能をもたせる。	A	A	・不祥事ゼロの学校を目指し、教職員の日常の指導や言動等に目を向け、リスクを感じた場合には即対応するとともに、教職員への情報提供や研修の充実を努める。
		個人情報の取扱いについて、管理・運用の在り方を整備する。	B		
		飲酒運転撲滅やセクハラ防止等の研修を実施する。	A		
教育課程	個別の教育支援計画や指導計画等を見直し、個に応じた指導の充実を図る。	個別の教育支援計画の様式や運用方法について見直し改善を図る。	B	B	・個別の教育支援計画については、合理的配慮の観点を示すための様式に変更を行う。 ・指導要録の電子化に伴い、作成要領や情報管理の徹底を行う。 ・全教育部門の教育課程を見直し、幼児児童生徒の実態に応じた編成ができるよう努める。
		障害の状態及び発達段階、特性等に応じた教育課程を編成する。	B		
		教育部門、学部、学年、学級ごとに指導内容・方法の改善を適宜行う。	B		
幼児児童生徒指導	幼児児童生徒の諸問題の解決を図る。	幼児児童生徒の状況を随時把握し、共通理解する。	B	B	・幼児児童生徒の現状や問題行動について、報告会や共有パソコンで共通理解をする。 ・問題発生時における職員の対応について、さらに明確化し危機管理マニュアルにする。 ・職員間、関係機関との連携をさらに強化する。
		緊急対応訓練やいじめを含む問題行動の未然防止授業を行う。	A		
		職員間や家庭、関係機関と連携を密にし、生徒指導上の課題に適切に対応する。	B		
研修	教員の資質・専門性の向上を図るため、研修・研究の充実を図る。	教育課程実践交流会を見据えた情報収集や研究計画を立案する。	B	B	・平成29年度の教育課程実践交流会に向けて2年間の学校研究の計画を立て、1年目の研究を進める。各グループで研究授業を計画し、全体で授業参観する体制を工夫する。 ・学校研究に関する研修会とは別に、各教育部門のニーズに応じた研修会を実施する。
		授業研究会を計画的に実施する。	B		
		聴覚・知的・肢体の3障害種等の多様なニーズに応じた研修会を実施する。	C		
保健・安全	幼児児童生徒の事態把握に努め、安全な学校生活を送るための体制づくりを進める。	食や健康に関することなどの調査票を活用しやすいよう整理する。	B	B	・食や健康に関する調査票について、さらに活用しやすいように改善を検討する。 ・緊急時のシミュレーションの反省を生かして、マニュアルの更なる改善を図る。 ・幼児児童生徒の実際の医療的ケアの内容について研修を行う。
		実際のシミュレーションを通して、緊急対応マニュアルを改善する。	B		
		医療的ケアやてんかん発作等に適切に対応するため、校内研修の充実を努める。	A		
センター的機能	巡回相談、教育相談、通級による指導等の充実を図る。	相談依頼先のニーズに応じた巡回相談を実施する。	A	A	・本年度中に支援を行った保幼・小・中・高等学校に対して実施した「教育相談等に関するアンケート調査」結果をもとに、本校のセンター的機能を再検討し、アウトリーチを取り入れた支援の充実を目指す。
		各教育部門の専門性を生かし、年齢や成長段階に応じた教育相談を実施する。	A		
		通級による指導担当者連絡協議会を開催し、在籍校と連携する。	A		
進路指導	系統的な進路学習を通して、進路指導の充実を図る。	充実した現場実習・職業体験実習を企画・実施する。	A	A	・本年度、キャリア教育段階表は作成したが、実際の活用までにはいならず、キャリア教育に関する研修会をもつところまでであった。次年度は、実際の授業でこの考え方を生かせるような取組が必要である。
		教育部門、学部、学年の発達段階に応じたキャリア教育を推進する。	B		
		進路資料を整理し、キャリア教育段階表を作成する。	A		
環境整備	校舎内外の点検や日常の清掃等の充実を図る。	施設・設備で危険箇所の発見に努める。	B	B	・施設方法、安全点検方法を大幅に見直した。来年度の業務移管がスムーズに行えるよう努める。
		月1回の職員清掃を確実に実施する。	A		
		校舎内の施設管理を徹底する。	B		
人権・同和教育	幼児児童生徒の自尊感情や障害認識を育むとともに、教職員研修の充実と関係諸機関との積極的な連携を図る。	人権教育の取組に関する記録を集約し、成果と課題を明らかにする。	B	B	・特別支援学校における人権・同和教育の取組を充実させ、子どもたち一人一人が大切にされ、人権が尊重される学校づくりを目指したい。さらに本校の取組を外部に積極的に発信していくことで「共生社会」の実現につなげていきたい。
		年4回の校内研修会を実施し、年2回の校外研修会への参加を調整する。	A		
		関係諸機関と連携し、本校の取組を保護者や地域に発信していく。	B		
情報教育	ICTの活用や視聴覚・情報機器等の充実を図る。	夏季休業中にソフトを用いた基礎的な研修を実施する。	B	B	・ソフトの基礎研修は、受講者が少なかったが、好評だったので次年度も行いたい。 ・まだまだ機器が足りないのので、計画的に購入して充実させていかねばならない。 ・一覧表にはしているが、活用までに至っていないので、アナウンスを行っていく。
		ICT活用に向けた機器等の充実を図る。	C		
		視聴覚機器を活用しやすいよう一覧表にして示す。	B		
庶務	新しいPTA活動の充実を努めるとともに、新しい同窓会組織の立ち上げに向けて準備を適切に行う。	PTAの組織が機能し、事業計画が適切に進行できるよう努める。	C	B	・PTA組織が全保護者に十分理解されておらず、うまく機能しなかったため、来年度に向け見直しを行う。行事（特にバザー）についても混乱があった。新しい同窓会の発足に向け、会則は今年度の総会で仮承認を得ているが、行事の運営方法については検討が必要。
		直方養護学校・直方特別支援学校同窓会の連名組織の立ち上げに向け準備を行う。	B		
		直方豊学校同窓会と必要に応じて連携する。	B		
寄宿舎	学校と連携し、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して寄宿舎生活を送ることができるようにする。	学校と寄宿舎の担当者間で連携し、組織的に諸活動に取り組む。	A	A	・寄宿舎の担当と学校の担任、保護者の三者の連携は、非常に重要であるので、常に高い意識をもち、積極的に連携を図ることを引き続きの重要な課題とする。また、施設設備の老朽化に伴い、日頃の安全点検を丁寧に行う。
		安全点検、投棄確認、避難訓練を実施し、安全・安心な生活の充実を努める。	A		
		保護者と連携を図りながら、個々の課題に適切に対応する。	B		
事務	予算削減と環境整備班の導入の中、計画的予算執行と施設設備の充実を図る。工事における安全管理の徹底を図る。	運営委員と連携を図り、経費の削減に努め、効率的な予算執行を行う。	A	A	・施設・設備の経年による老朽に対応する安全管理の徹底及び施設増により義務的経費の増が見込まれる中での計画的な予算執行に努める。
		施設設備関係の要望を踏まえ、優先順位を付けながら対応する。	B		
		安全管理を行うため、工事業者との連絡・調整を確実に実行する。	A		